

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.151

2014年7月3日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004
神戸市中央区中山手通 4-10-8

子ども同士が学び合い高め合う授業に

情報社会と教育部会
授業研究会 開催

研究所情報社会と教育部会が、三木市の中学校において理科の授業を参観しました。

授業は1年生の「光の性質」の第1時。小学校で既習の光の直進・反射について確認した後、反射の法則に関する実験をおこないました。ICT機器を使つての授業研究会では、情報機器がなければすすめていく教材が選ばれることがよくあるのですが、この日は普通の授業をICT機器を使って効果的にすすめる授業でした。カメラの角度を変えていろいろな方向から演示実験の様子を見せ、視覚にうったえることで理解が深まりました。50分という時間的な制約でグループごとの実験ができなかったこともあり、研究協議ではICT機器が発達しても、実験を通して自分の目で見て手で触れて試行錯誤を繰り返す、生徒自身が考えることが大切だという意見が出ました。

共同研究者からは、以下のような助言がありました。

1. 実物投影機のよさは生徒の視線をコントロールできる

教科書を実物投影機に映し、「教科書を開けて」と指示する → 視線が下がってしまう

演示実験に使った方法 → ポイントを絞って見せることができる

2. 教員が演じる5つの役割（5者）

「役者」パフォーマンス 「学者」教材研究 「易者」カウンセリング

「医者」心とからだの健康 「芸者」子どもを主役にする（つなぐ）

3. ICT機器を使う学習の目的として2つの軸

①子どもと学習内容を結びつける（内容をわかりやすくするための軸）「役者軸」 → 今日の授業

②子どもと子どもを結びつける（考えを共有し互いに触発して成長するための軸）「芸者軸」

→ 学校は学びの共同体（児童生徒が集い学習をすすめる長所を生かす）

最後に

ICT機器を使つても、子ども同士が学び合い高め合う授業にとりくんでほしいとまとめられました。

